

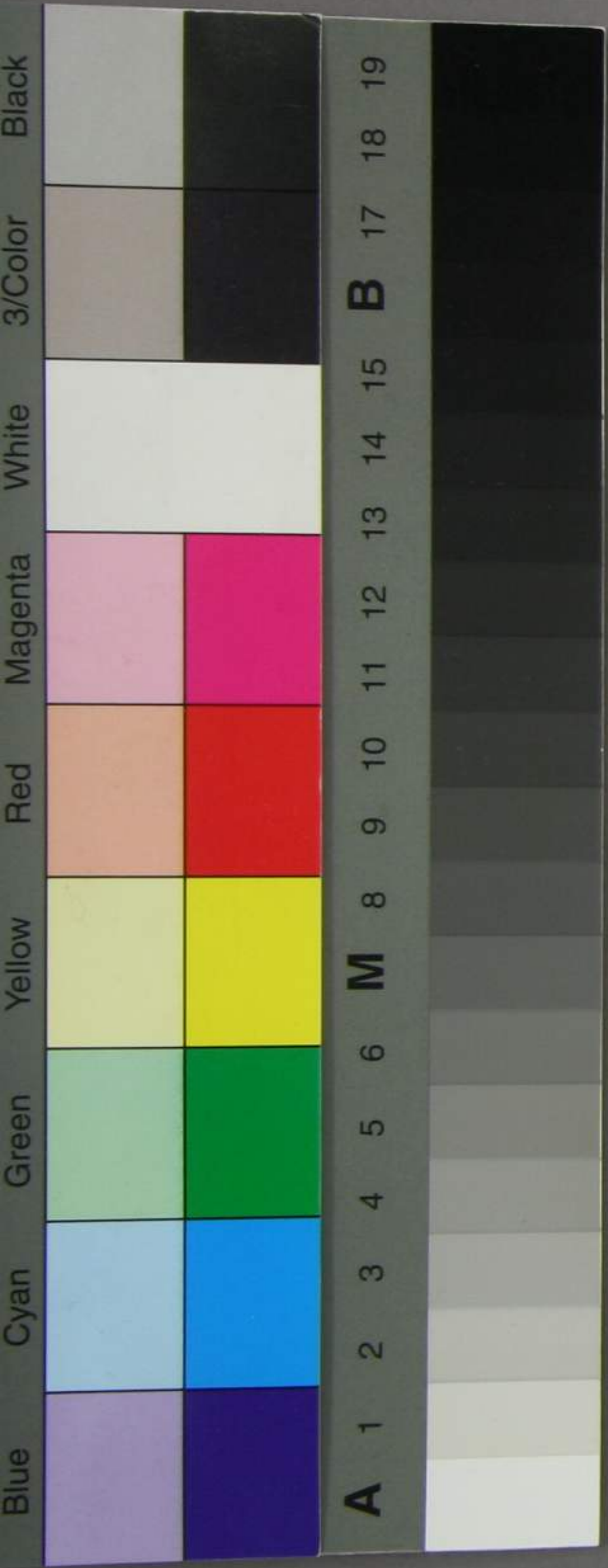
114
A 4114



神道終議ノ手續

明治十三年四月以来神道事務局改正論議
スルヤ其起源一ナラス今其概畧ヲ示スルニ如
明治八年七月神佛合併離散ノ萌マルニ際シ神
宮達并所ヲ有樂町ニ所月ニ置キ次テ神道事務局
ヲ其内ニ依設シ以テ全國ノ神道教職ヲ宍山ニ籠絡
セニト組立タル是其一因ナリ同年十月神道事
務局ニ大會議ヲ開ク時神宮大宮司権大教正田
中頼庸其議長ナリ議長ノ特権ヲ以テ衆員
ノ可決ヲ破毀セシモノ數件アリ是其二因ナリ

大正十一年四月
贈



同年同月教典編輯ノ案ナリ由中頼庸其
長トナリ立論討議スル所比白古義古典ハテ放下
ニテ造化主ノ名ニヨリ新規ノ一宗教トナサテ大
教正千歳尊福始有識者之ヲ論破之且旧神祇官
宜教使ノ著ス所神魂要旨神魂演義ニテ大國
主神ヲ祭サル可ナル旨切論ニ數回ニ及フモ剛愎自
用ニテ改メズ懺悔スニテ編輯ニ關カル有識者
皆離教ス是其三因ナリ

ニテ未全國教尊威頓墮ノ裏情結ニテ解ケル
日ナク人心日ニ増シ背戻教務ハ滋滯弥甚ニ遠
二十二年三月ニ至リ迄ニテ有志會議トナリ其八月又大
會議トナリ其間ニ神宮ノ教職之ヲ妨ル事件々コレ
アル氏其障礙ヲ念トセス議決スルモノ教件アリ遂ニ
事務局ヲ新築ホシテ神宮教職ノ專權ヲ防カン
トス障礙セラルハ所アリテ亦事成ラズ是其四因也
同年五月大教正千歳尊福教意確立ノ事ヨリ
大田主神ヲ事務局神殿ニ合祀スルニテ上ノ事ヲ建
議シ八月同人上京シテ尚再諫ス曖昧以テ日ヲ送り
事遂ニ行ハズ是其五因ナリ
明治八年三月同十二年八月兩度ノ會議ニ決スルモ

△同日中在京
勅令十八名
三ノ同ノ表各在
社ノ件ヲ建御シ

ノ教件実践スルモ甚少ナク神宮教職ノ壓抑
日三月ニ轉盛ニシテ此々タル事件ニ涉リテハ云フ
可カラサル弊害茲ニ極ル是其ノ因ナリ

明治十三年神殿落成并一月中復ヒ千家尊福
ヨリ祭神ノ議ヲ建言^品五月千家尊福上京シテ
又建議シ次テ事務局事務上ノ弊タルヲ見
聞^レ以テ矯正セシムヲ望ミテ事務局改革ノ議ヲ
奏シ同月遷宮祭ニ集合スル教職三十八名ヨリ
同ク祭神並ニ事務局改革論ヲ建議シ遂ニ
五月廿日ニ至リ六級以上在京教導職ヲ事務カ

局ニ集メ事務局員負ト民ニ祭神論ヲ事務局新

策ノ二議ヲ討議セシム祭神論ハ大教正千家尊

福大教正平田鐵胤<sup>伊邪那岐神伊邪那命天孫尊
大國主神ヲ表名ニテ合祀スヘト云テ説</sup>

ハ向人ノ説ニ同意スルモ最多ク殆八九方ハ同意者

ナリトモ田中賴扇曖昧以テ事ヲ決セス其後忠告

切諫スルモ數回皆水泡ニ帰シ祭神論ハ田中賴扇

断シテ之ヲ拒シ千家尊福ハ其旨ヲ決然テ千家

尊福副管長ヲ辭シ古義古典ニヨリ別ニ立ニテ

貞正ノ本教ヲ維持セントス**是其七因ナリ**

同五月廿一日事務局ヨリ千家尊福ハ副

官長ノ兼誌書リ返戻し右副官長ノ名
義ハ暫ク取消ス旨ヲ出シ同六月七日田中
賴庸ヨリ各家尊福(送)リタル祭神意見
書ヲ以テ事務局ノ達トシ田中賴庸ハ本官用
旨ヲ以テ大教正鴻 雪川 等ヲ以テ己レ代
ニメ同月十七日伊勢ノ歸ル於是全國教
職益々離悖シテ理ス可カラサル勢ニ至ル
是其八因ナリ

此八因ノ外措ク一能ハサル者奉テ教ルニ違
アラス萬々止ム一能ハサル權大教正本居豊額

寺數名ノ者ヨリ事務局シテ公議輿論ノ
期ニ所從ハシメテ事ヲ身ニ任シ大教正各家
尊福、別立ヲ止メ事務局保護、撥ヲ
天下ニ頒布シ衆教道ヲ職、意見見ヲ質ス
テ各家尊福モ本居豊額等ノ所論ヲ容
シテ本人ハ祭神ノ件ヨリ迄未事務局ニ向
テ尺ニ所ノ手續キテ筆記ニ報告書ト題
テ全國神道教道ヲ職、意見見ヲ向フコトニ
報告ヨリ相會ニ相應スモノ一人一己ノ名ヲ以
テスルモノ全國七十八分局ノ内四十七分局官國

幣土事務局一資金ヲ出シ分月トノ名ヲ以テモノ
不事務局ヲ負擔スルモノ

二十九社ノ多キニ至リ遂ニ八月中東京府下
神道事務局ノ旨ニ義會ヲ起シ將ニ新
道ノ爲メニ爲ス所アリトス時ニ尙外中ニ
ヲ謀リ双方ノ議ニ同セサル者數多尙數神社
アリ是ニ至テ双方ノ間ニ立千百方奔走西
者ノ主張スル所ヲ折衷ニ調停約ノ條款ヲ
作ル此條款ニ於テハ千家ノ本居等領事
ヲ始メ同盟ノ名ヲ尙委員各神社職員等ニ
於テ斯道ヲ爲ス所足ノ件々數多アリト

虽今日布教ノ急務ヲ圖キ同職相争フ如キハ
素志ニ於テ方々好ム所ニ非ルト事務局ハ全團
衆教育感ノ意見ヲ廣ク容ルニ非レハ到底一
和ヲ期スル所得可カラサルトニ至リヨリ同盟ノ名義
固ク其ノ精神ヲ由テ九月廿七ニ於テ神道事務
局ノ旨ト和和シテ同盟書ヲ副官長代理總
務局長教正平山者齊等ト同盟者希ニ調
理入トノ間ニ結納ス

同盟書ノ旨

一之進官ヲ官長ニ申請スル事

但し事務主任の委員ト在る者之級以上
ニテ選任スル事

一又此ノ官署長即清ノ上ハ千家田ヤ一西土教正
ヲ副署長トスル事

他申請ノ法示条ノ通リ田中土教正
ハ辞表ヲ返スル事

一竹官長ヨリ左ノ命令ヲ遵セラル事

一表各名各祀ノ名ヲ用耳スレラ左ノ四柱神ヲ
新ニ神殿内ニ祭祀スル事

白土守尊

活

現々奉祀スル儀

田

大田ミヤト

一西副署長ヲ以テ署長事務ヲ代理セシムル
事

一大会議ヲ定ムル事 但し本年十月迄限有

一會議ハ多數ノ同意ヲ得ル法スル事

一大會決に於テ諸別規條制ヲ決定スル
一大會議係長石幹事四名ヲ公擇シ會議事件
一切委託スル事

但事務局諸事調理者ト在京同志者ニテ及
西ホスル事

一右會議ニヨリテ決シタル別規條制ニ遵ヒて担任ノ職
員ヲ決定スルニ於テハ別ニ異議ナキ事

右

此の約言始テ一和協同シ同月廿八日事務局委員
達ヲ以潤澤一和相整ニシテ遺書ヲ出シ同十月

中久任官ニモ一々所承諾未西者連署者トテ協長
選奉申請書ヲ呈ス於是各地事務局委員未歸
途ニ初キ内約廿五條ノ會決係ニ建案ヲ并理セシ
全ク一斷句ヲ結フ是四月以來ノ紛紜ヨリ五月ノ久
キヲ経テ結成シタル一事ナリ然ルニ又權を放正空野
半ヨリ放我討傷門牙キ方上申ト懸セシマシ
務卿會堂ニ權中放シテ正業ヲ尋本知テ紳士
糾合而造當庭聽訟可設願ト懸スル一事ヲ呈
シ陰ニ事務局内約ヲ破ラントス時ニ古教正田中
賴庸伊勢ヨリ歸リ以來美出し置タル副協長

辞表ヲ事務局ヨリ返戻シタルヲ得タリトシ己ノ同族
者タル權方教正折田年季ノ方教正落名直進權方
教正安野半權方教正常之長流四右ヲ奉テ事務局
ヨリ活タラシメ自ラ副官長ノ名義ヲ得テラ會議
係ノ出張ラシメ權方事務局ヨリ更改シテ九月
廿日ノ番外達ヲ事務局ヨリ有之報ノ數字ヲ以テ
一布達ノ下ニ取消シ因物ノ序ハフ印ノ奉一今日ニ至
リテハ必自悉撲滅ニ属シタリ我同盟ノ者以前ニハスレハ
其數ヲ加ヘ切齒恨歎憤懣ノ至リニ堪ヘス事務局
ニ對シ號泣哀訴求メテ止マサレモ彼副官長ノ

名義アルヲ以テ断ヤトシテ我ヲ拒絶シ去月四日ヨリ
今日ニ至リ如何ニ為ス事能ハス意喜退テ止マシカ
道ノ多ク教ノ為メ我ニ於テ進マサル一可カラス進テ為
ス所アラニカ大方ニヤ方ニ控ル所ナシ実ニ所謂進
退維石トハ吾同盟者ノ謂キラ幸ニ名子ノ人ノ
情誼ト條理トヲ細察熟慮アラシテラ希望
ニ堪ヘカハナリ

